

令和2年度 大阪市立生涯学習センター運営評価委員会 要旨

1 日時 令和2年7月16日（木）午前10時～午前11時40分

2 場所 総合生涯学習センター 企画開発室

3 出席者

【委員】赤尾勝己委員（座長）、出相泰裕委員、岩槻知也委員、西本聡子委員、橋本佳子委員

【事務局】総合生涯学習センター：土橋所長、川崎副所長、竹内企画推進課長、
高橋事業主幹、管理係長、企画推進係長、管理課係員

阿倍野市民学習センター：樋川所長 難波市民学習センター：高貴所長

【オブザーバー】大阪市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習担当 担当係長

4 次第

(1) 開会

(2) 出席者紹介

(3) 案件

① 令和元年度 大阪市立生涯学習センター 事業の報告
生涯学習センター事業計画重点項目（実績）について

② 生涯学習センター事業の評価について

(4) その他

(5) 閉会

5 会議概要（主な発言等）

(1) 令和元年度 大阪市立生涯学習センター事業の報告
生涯学習センター事業計画重点項目（実績）について

（委員）生涯学習の問題点はずっと学んできた人は引き続き学び、学習に縁遠かった人はそのまま学ばないという学習の格差が起きていること。生涯学習の裾野をいかに広げるかというのが課題。受講者アンケートで生涯学習センターや民間などでの学習歴について項目を設け新規の受講者がどのくらいか聞いてはどうか。新規の方が学習を続けるということになれば、それは成果につながる。社会人になって学びたいと変容してきた人をいかに取り込むかが大事。

（委員）新型コロナウイルス感染症の影響で3月の貸室利用率は落ち込んだと思うが、そ

の時期の利用率はどれぐらいか。

(事務局) 総合生涯学習センターは 63.3%(令和元年度は 89.8%)、阿倍野市民学習センターは 43.8%(令和元年度は 79.5%)、難波市民学習センターは 53%(令和元年度は 77.7%)と、新型コロナウイルス感染症の影響でかなりの落ち込みがある。

(委員) 利用が多ければよいということでもない。多かったらかえって密になる。今後は別の観点が必要になるのでは。数値の評価については、今からは考え方を変えていく必要があるのではないか。

(委員) 「いちょうカレッジ」の受講者が非常に増えている理由は何か。

(事務局) 多岐にわたるテーマで入門科、プレ本科、本科、専科と 12 コースを実施しているため、同じ方が複数のコースを受講していただいていることが理由の一つである。

大阪のまち・文化コースなど、非常に人気があるコースは受講人数を定員より多くとることもあった。

密を避けるために、今年度は受講者数が前年度実績を上回るのは難しくなるので、評価の基準を変えていかないといけないかもしれない。

(委員) 「いちょうカレッジ」受講者数は実数なのか延べ人数なのか。同じ方が何回も受講して延べ受講者数が増えているという状況なのか。受講者のリピート率はどれぐらいか。

新規の受講者を増やして裾野を広げていくのは大切であるが、新しい受講者を獲得しているのか。

(事務局) 「いちょうカレッジ」では複数の講座を受講されている受講者もいる。また、毎年受講している方もいる。受講者のリピート率はカウントしていないが、複数の講座を受講されている方は最近の傾向としては、平均 3 割程度ではないか。継続して学ぶことで、地域での実践活動や仕事で活かしたり、受講者のネットワークづくりにもつながるのではないか。

(委員) 生涯学習インストラクターバンクの紹介件数に対して成立件数が半分以下になっている理由はなにか。

(事務局) 実績として掲載しているのは、あくまで新規の紹介件数と成立件数である。問い合わせのニーズに合う講師を紹介するが、依頼者と講師と直接相談された際に条件などが合わず 43%となっている。ただ、一度紹介した後、継続して講師をされているケースも多く裾野

は広がっていると思われる。

(委員) マッチングができない理由はなにか。

(事務局) 遠方であるなど場所の問題、会場の設備の問題など、ケースバイケース。

(委員) マッチングできないケースについての分析が必要ではないか。

(委員) インストラクターバンク新規登録者が13名とのことであるが、最近の傾向としては、どんな学習領域が多いのか。

(事務局) 例えば絵手紙であるとか、ヨガや健康体操、笑いヨガなどの健康系の分野が最近多い。

(委員) 識字・日本語指導者ボランティア養成講座を受講した方が、受講後実際にボランティアに登録しているのか。

(事務局) 活動の後追い調査までは、十分にできていないが、活動希望をお伺いして活動しやすい教室を紹介している。受け入れ側の状況などマッチングの問題もある。できるだけ受講後、活動を続けやすいよう支援している。

(2) 大阪市立生涯学習センター事業の評価について

(委員) うまく行ったら「◎」、次は「○」、できなかつたら「×」の3段階評価についてご意見を聞きたい。4段階評価、5段階評価という方法も考えられるが。

(委員) 評価基準を高い水準に設定しているが、できなかつたらいきなり「×」となり、そこだけ見られると、できていないということになる。もう少し柔軟な評価にしてもよいのではないか。

(委員) わかりやすく重要な指標だと思う。一方で、先ほどのように数値が増えればいいのかという問題もある。質的な評価みたいなものもあってよい。例えば、担当職員が日頃感じていることなど、数字だけでは見えないところも加えてもいいかと思う。

(委員) 他の自治体で指定管理者が、施設の利用者の感想などを報告書にまとめて議会に提

出した例がある。学びで人生を変えるようなことが起きる場所であることに関心を持った議員もいるそうである。施設の存在意義として、毎年全員でなくても感想などを書いていただいた資料を持っておくのがよいのではないか。

施設を利用して、あるいは講座を受けたことにより、自分にとっての影響、変化、楽しい経験などアンケートの自由記述に書いていただくのもよい。

数値の件も前年度以上を基準にするのは、高止まりしている数値をさらに高くするということが厳しいのではないか。もう少し柔軟にしてはどうか。

(委員)目標の数値をどこに設定するか。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあるので当然前年度より下がる。結果として評価は「×」ばかりとなる。

(事務局)前年度実績との比較より、数値化した目標の方が良いということか。成果と課題の欄に利用者の声や特徴的なコメントなどを記載するのがよいかなと思う。

(委員)量的な評価と、質的な評価、この両方が必要。数値を基にそれをエビデンスにして評価して、そこにプラスして質的な評価をどう取り入れていくか。

(委員)利用者アンケートについて、どのような内容について利用者に聞いているのか。

(事務局)事業報告書に設問と答えを掲載している。

(委員)講座受講後のアンケートの質問項目についてはどのような内容か。

(事務局)事業アンケートの一部の項目についてまとめて事業報告書に掲載している。

また、人材養成などの講座については、質問項目は一部異なる。アンケートの項目についても、今年度から始める事業評価をふまえて検討していきたい。

(委員)3段階評価という説明であったが、参考までに、私どもの団体の事業評価は4段階評価にしている。「×」にも度合いがあって「△」という評価も設けている。

例えば、数値目標から見ると若干下回るが、違う観点から見ると受講者の評価も高かったなど、補足的に文章で示すことにより、数字だけではない判断により「△」がつくものがある。「△」であっても次の改善につなげればよい、という考え方で評価するのはどうか。

(委員)大阪の弱みは大学で学ぶ社会人が少ないということなので、大学との連携講座で学んでさらに高度なことを学ぼうという人が出てくると大きな成果である。連携講座の受講者アンケートにおいて聞いてもらいたい。

(3) 座長まとめ

①新規に学ぶ人の裾野を広げていくという観点が重要なのでアンケート調査をする際に、過去の学習歴を聞いてみてはどうか。受講者数のカウントの仕方についても、延べ人数だけでなく、実数をみる必要がある。

②生涯学習インストラクターバンクの紹介成立の割合が低い理由について分析をする必要がある。

③評価指標について、量的な評価と同時に質的な評価の両面が必要なのではないか。

アンケートの自由記述にでてくる受講者の感想なども踏まえながら職員が自己評価をするとよいのではないか。

量的な評価では、目標の設定を前年度の実績以上とするということではなく、違った数値の設定の仕方が他にないか検討してほしい。

④現段階では、3段階評価になっているが、4段階評価(◎・○・△・×)にしてはどうか。